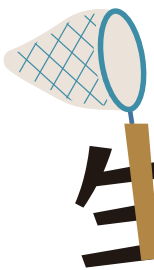


君の好奇心が
未来を変える第一歩になる。



三重大大学 生物資源学部



生物資源学科

- ＼ 生物資源総合科学コース ＼
- ＼ 農林環境科学コース ＼
- ＼ 海洋生物資源学コース ＼
- ＼ 生命化学コース ＼

BIORESOURCES GUIDEBOOK 2027



生物資源学研究科長
生物資源学部長

橋本 篤

ごあいさつ

三重大学生物資源学部の前身は、1921年設置の三重高等農林学校であり、1987年に当時の農学部と水産学部の統合により発足し、現在では約70もの教育研究分野を有している独自性に富んだ学部として発展してきました。入学定員は260名で、農学系学部では東海・中部の国公立大学の中では最大規模を誇ります。また、農林水産学分野におけるほとんどの学問領域を網羅するとともに、実習の場である附属教育研究施設として紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター（農場、演習林、水産実験所）と東海・北陸・近畿地方の国立大学の中では唯一の練習船（勢水丸）を有しています。さらに、本学部は単独で博士課程を設置しており、学部卒業後により専門性を高めたい学生は、そのまま博士前期課程、博士後期課程へと進み、修士・博士の学位を取得することが可能です。

このように、生物資源学部は「山の頂から海の底まで」という言葉通り、広大なフィールドを教育・研究の対象としています。農林水産業及びその関連産業、すなわち、食料、環境、健康、バイオに関わる産業の振興を担う人材の育成を目指しています。皆さんの知的好奇心を刺激し、将来の可能性を見いだすことができる学部です。私たちと共に次の一步を踏みだしてみましょう。

生物資源学部とは

生物資源は、山から海までの広範な地域で育まれ、

食料をはじめとして工業原料、エネルギーなど人類にとって

有用な財を提供します。その特長は、適切に利用すれば、

枯渇することなく、持続的に利用できることです。

また生物資源を生産するために良好に管理された環境は、

人類が生きていく上でも良好な環境を保つ役割も果たしています。

生物資源学部では、このような生物資源の生産と利用、

その生産を支える環境の維持に

貢献できる能力を身につけることを目指しています。

CONTENTS

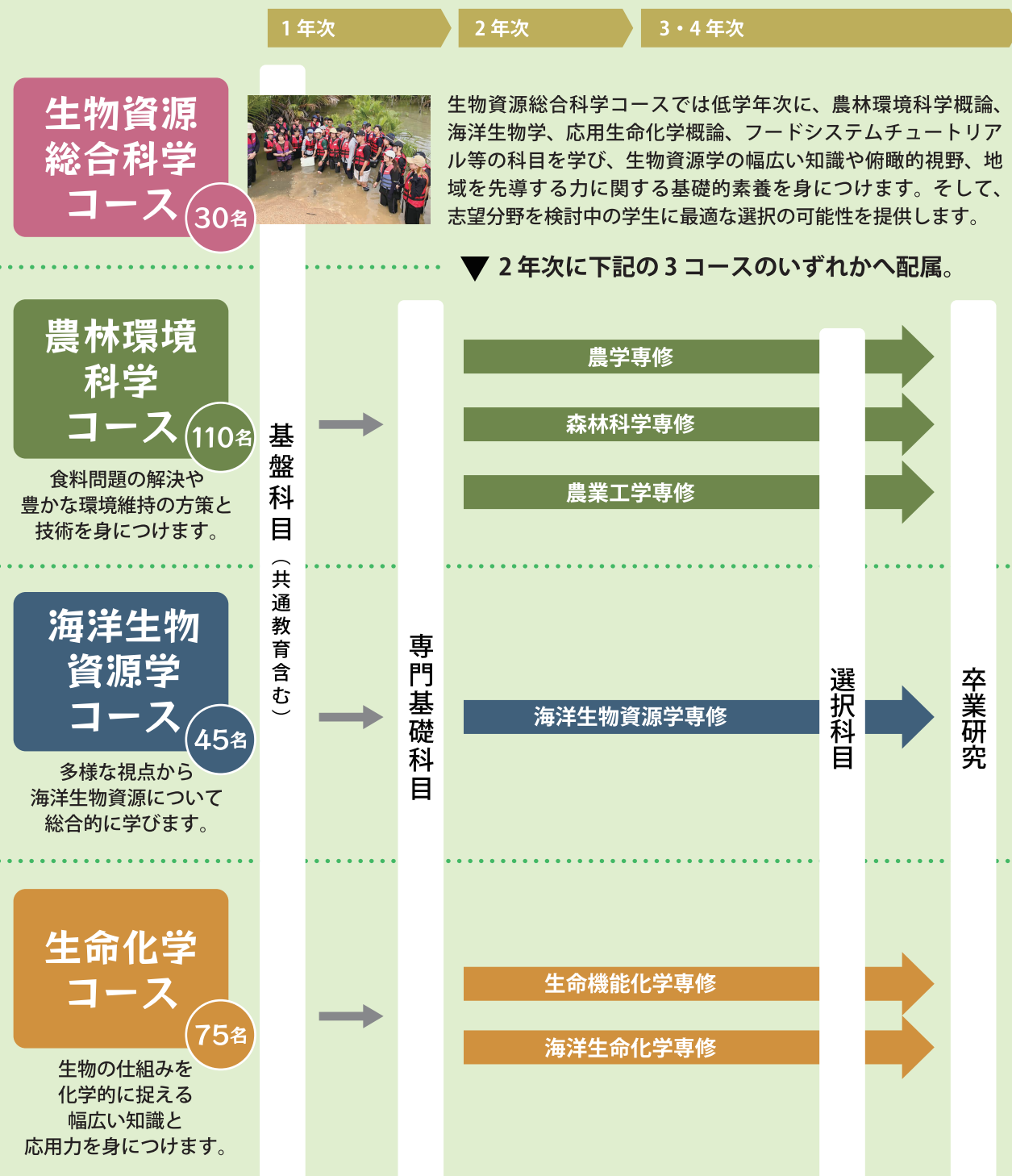
- 1 ごあいさつ
- 2 生物資源学部生物資源学科 コース構成
- 3 農林環境科学コース
- 4 農林環境科学コース 研究内容紹介
- 5 海洋生物資源学コース
- 6 海洋生物資源学コース 研究内容紹介
- 7 生命化学コース
- 8 生命化学コース 研究内容紹介
- 9 附属教育研究施設
- 10 附属練習船 勢水丸
- 11 生物資源学部【沿革】
社会・世界とのつながり
先輩（卒業生）からのメッセージ
- 13 入学から卒業まで
- 15 入学試験
- 17 資格・免許 奨学金
- 18 アクセス

生物資源学部生物資源学科 コース構成

本学部の強み

山から海までの
生物資源に関連する幅広い学問を
学ぶことができます。

地球環境・生態・個体・細胞から分子まで学ぶことができます。
フィールドサイエンスセンターや練習船での実習などを通じて、広範な視野から学ぶことができます。



農林環境科学コース

農林環境科学

地球の守り手になる。
農林環境のスペシャリストを育てる場所。

取得可能な
資格・免許

- 教員免許
- 学芸員 ●樹木医補
- 修習技術者
(JABEE 農業土木プログラム)
- 測量士補(農業工学専修)

ホームページ等で必ず最新の
情報をご確認ください。

農林環境科学コースでは、生命農学や社会科学の視点からフードシステムを理解し、食料問題の解決や豊かな環境を維持する方策と技術を学びます。また、森林生態系の自然環境や生物多様性を学び、地球温暖化の抑止や脱炭素社会を実現する資源の持続的な利用に必要な技術を習得します。さらに、農村空間や環境の保全修復、食料生産、資源循環、資源有効利用に関わる基礎理論を学び、それらのスマート化に必要な技術を身につけます。

2年次からは、農学専修、森林科学専修、農業工学専修(農業土木学系・環境情報学系)の3専修に分かれ、それぞれ特徴的な専門科目や研究手法について学びます。



学部必修

生物資源学総論、
フィールドサイエンスセンター体験演習、
技術者倫理、卒業研究

学科選択必修(2科目4単位修得)

農林環境科学概論、海洋生物学、
応用生命化学概論

【コース関連の研究室】

分子遺伝育種学	資源作物学	園芸植物機能学	動物生産学	草地・飼料生産学	植物医科学	昆虫生態学
循環経営社会学	国際資源植物学	国際資源利用学	森林保全生態学	森林微生物学	森林総合環境学	緑環境計画学
森林環境砂防学	森林利用学	木質資源工学	木質分子素材制御学	応用環境情報学	生産環境システム学	生物環境制御学
エネルギー利用工学	フードシステム学	農村計画学	土資源工学	水資源工学	農地工学	水利施設工学
土壌圏システム学	土壌圏循環学	フューチャー・アース学	地球システム進化学	環境解析学		

コース選択必修

農学専修



育種学・作物学・園芸学・畜産学・植物病理学・昆虫学・生態学といった生命農学への理解を深めつつ、経営学・経済学等の社会科学の視点から俯瞰することにより、生産から消費者までをつなげる流れ、すなわちフードシステムとして農学を学びます。これにより、食料問題の解決や緑豊かな環境を維持し、生物資源を活用する方策や、技術、システムの評価手法を学び応用することを通じて、地域社会から世界へ貢献することを目指します。

- | | | | |
|-----------|------------------|------------------|------------------|
| ●植物学 | ●農業生物学実験 | ●植物病理学 | ●フィールドサイエンス農場実習Ⅲ |
| ●食料・資源経済学 | ●農作物生育制御概論 | ●昆虫学 | ●農林統計学 |
| ●農地工学 | ●フィールドサイエンス農場実習Ⅰ | ●動物飼料学 | ●農学科学英語 |
| ●農場・演習林実習 | ●植物遺伝育種学 | ●農業経営学 | ●資源動物学 |
| ●生理学 | ●作物学 | ●食農システム学 | ●農学演習Ⅰ |
| ●細胞生物科学 | ●園芸学 | ●農業化学実験 | ●農学演習Ⅱ |
| ●植物保護学 | ●動物生産学 | ●フィールドサイエンス農場実習Ⅱ | ●農学演習Ⅲ |

その他(選択・自由科目)

- 農業に関する生物・社会科学的研究
- 動植物の栽培や生産に関わる分子生物学的研究
- 農業や環境に関する生態学的研究

森林科学専修



森林は、世界の陸地の30%をおおい、陸上の生物現存量の90%にも達する巨大な生物群集です。地球環境の維持に加えて、生物多様性保全、国土保全、水源かん養などの機能を持ち、その恵みである木材は再生可能で、建築材料、木質材料、バイオマス資源として重要です。森林科学専修では、森林生態系の自然環境や生物多様性を学び、地球温暖化の抑止や脱炭素社会を実現する森林資源の持続的な利用に必要な技術を身につけます。

- | | | | |
|-----------|------------|------------|------------|
| ●植物学 | ●木質資源工学 | ●森林育成学 | ●森林科学英語 |
| ●食料・資源経済学 | ●FSC演習林実習Ⅰ | ●森林生物学実験 | ●FSC演習林実習Ⅲ |
| ●農地工学 | ●農業経営学 | ●森林化学実験 | ●FSC演習林実習Ⅳ |
| ●農場・演習林実習 | ●森林・緑環境計画学 | ●FSC演習林実習Ⅱ | ●森林科学演習 |
| ●生理学 | ●森林利用・情報学 | ●農林統計学 | |
| ●森林微生物機能学 | ●森林化学 | ●森林生態学 | |

その他(選択・自由科目)

- 森林の生態系保全と生物多様性に関する研究
- 森林資源の持続的な利用と管理に関する研究
- 木質資源の高度利用に関する研究

農業工学専修



多様な生態系、地域社会、食料生産活動が共生する循環型社会の実現に向けて、農村空間や環境の保全修復、食料生産、資源循環、資源有効利用に関する先端技術の基礎理論を学びながら、それらをスマート化するために必要な技術を身に付けます。特に本専修のカリキュラムの特徴は、地域環境や生物生産現場を対象とした農村・農地・水資源の開発と保全、自然災害対応、システム開発、センシングを行う上で必要となる技術やスキルを実践的に身に付けるところにあります。

- | | | | |
|-----------|--------------|-------------|-------------|
| ●植物学 | ●応用数学 | ●応用力学Ⅱ | ●農業工学現場実習 |
| ●食料・資源経済学 | ●国際環境保全学(英語) | ●数値計算法 | ●フューチャーアース論 |
| ●農地工学 | ●応用力学Ⅰ | ●基礎水理学 | |
| ●農場・演習林実習 | ●農業経営学 | ●農業情報ネットワーク | |
| ●環境系数学 | ●プログラミング | ●実践データサイエンス | |

その他(選択・自由科目)

- 人工知能を搭載した農業ロボット・センサシステムの開発
- 持続的農業を目指した土壌水分や貯水池水位モニタリングによるデータ駆動型水管理システムの開発

主な研究内容

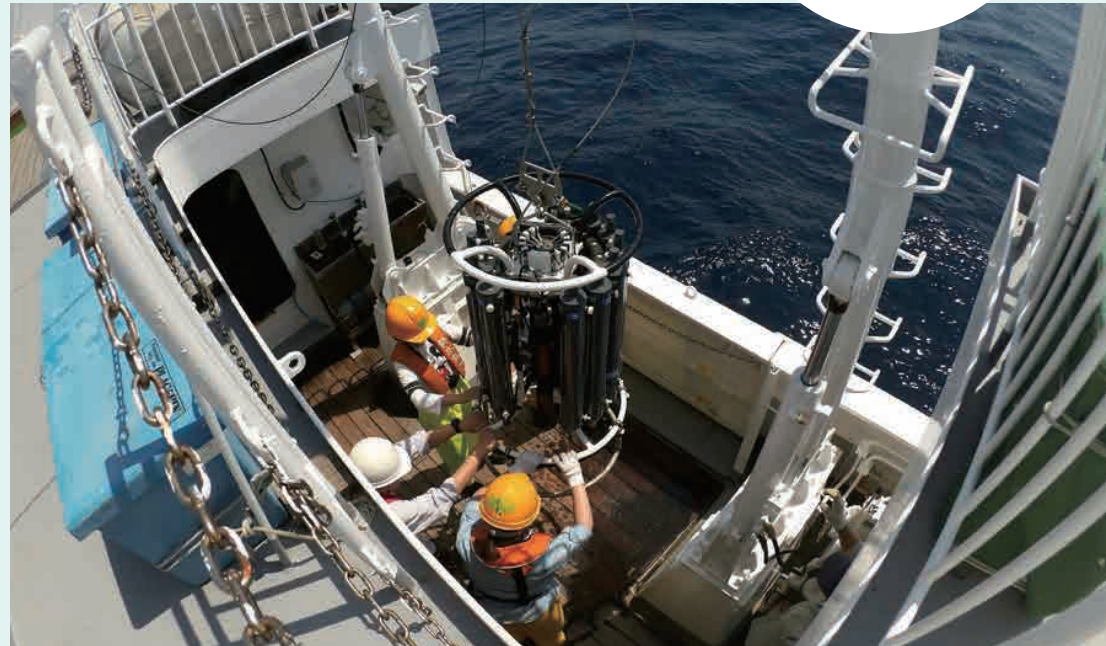
海洋生物資源学 コース

取得可能な
資格・免許

- 教員免許
- 学芸員

ホームページ等で必ず最新の
情報をご確認ください。

海洋生物資源学



海洋生物資源学コースでは、プランクトンから魚介類・鯨類、藻類などにいたる多様な水生生物について、遺伝子レベルから生態系レベルまでの基礎を学ぶとともに、それらを増やし育てる技術、保全、資源としての持続的利用や流通のあり方を学びます。

また、海洋環境やそれに密接にかかわる気候変動・異常気象なども対象とし、海洋における生物と環境との関係を理解し、多様な視点から海洋生物資源について総合的に学びます。



学部必修

生物資源学総論、
フィールドサイエンスセンター体験演習、
技術者倫理、卒業研究

学科選択必修（2科目4単位修得）

農林環境科学概論、海洋生物学、
応用生命化学概論

【コース関連の研究室】

気象・気候 ダイナミクス	気象解析予測学	海洋気候学	未来海洋予測学	生物海洋学	藻類学	海洋生態学
鯨類学	海洋個体群動態学	水産応用情報学	応用行動学	水族生理学	水圏分子生態学	水圏資源生物学
魚類増殖学	浅海増殖学	先端養殖管理学	資源経済システム学			

コース選択必修

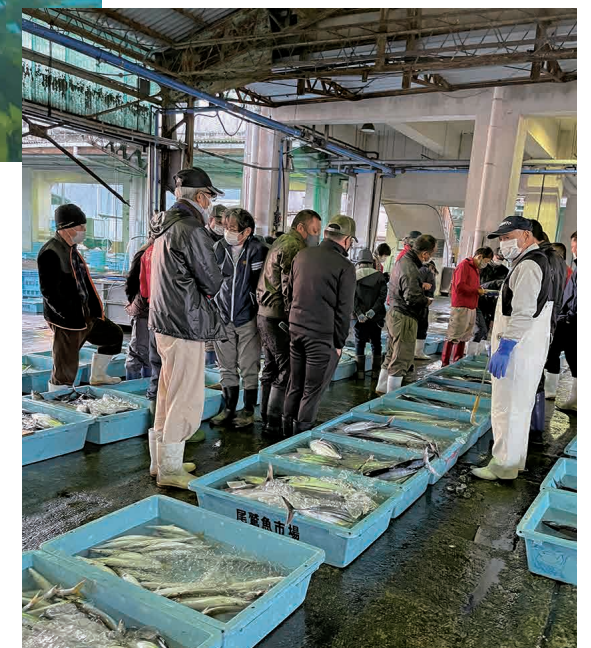
海洋生物資源学専修



- 細胞生物学
- 生理学
- 大気海洋循環学
- 水産学総論
- 臨海実習
- 乗船実習
- 海洋観測航海実習
- 生物統計学
- 海洋生物比較生理学
- 増殖生態学
- 浮遊生物学
- 藻類学
- 魚類学
- 底生生物学
- 海生哺乳動物学
- 海洋個体群動態学
- 海事概論
- 水族発生学
- 水産経済学
- 海洋生物資源学演習Ⅰ
- 卒業スタートアップ演習
- 海洋科学英語
- 海洋生物資源学演習Ⅱ
- その他（選択・自由科目）

主な研究内容

- 環境や生物多様性に配慮した海洋生物の増養殖の研究
- 気候変動が海洋・海洋生態系・漁業に与える影響の研究
- 海洋の生態系保全と生物資源管理の研究
- 水産物の生産・流通・消費システムを通じた食糧産業のあり方の研究



生命化学コース

生命化学

生命の『仕組み』を解き明かし、
未知の『可能性』を創り出す。

取得可能な
資格・免許

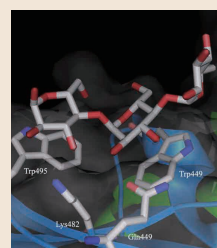
- 教員免許
- 学芸員
- 食品衛生管理者
- 食品衛生監視員

ホームページ等で必ず最新の
情報をご確認ください。



生命化学コースでは、多様な生物の代謝・物質・機能の解析を通して、生物の基礎的性質の化学的理解に必要な生命化学に関する幅広い知識と技術について学び、生物資源の持続的生産・利用・保全や人類の健康増進に貢献できる応用力を身につけます。

生命化学コースでは2年次前期までに基礎専門科目を学び、2年次後期から生命機能化学専修または海洋生命化学専修に分かれ、各専修に特徴的な専門科目や卒業研究に必要な研究手法の学理と技術について学びます。



学部必修

生物資源学総論、
フィールドサイエンスセンター体験演習、
技術者倫理、卒業研究

学科選択必修（2科目4単位修得）

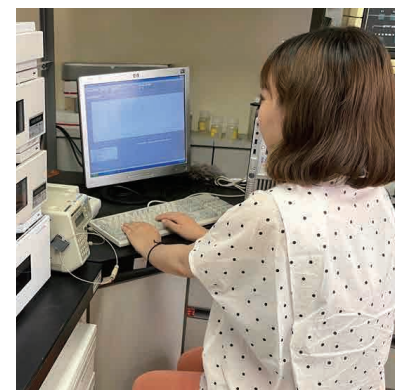
農林環境科学概論、海洋生物学、
応用生命化学概論

【コース関連の研究室】

分子細胞生物学	分子生物情報学	生理活性化学	創薬化学	生物機能化学	食品生物情報工学	食品化学
微生物遺伝学	栄養化学	食品発酵学	土壌圏生物機能学	海洋生物化学	水圏生物利用学	水圏材料分子化学
生物物性学	生体高分子化学	海洋微生物学	水圏生物学	海洋食糧化学		

コース選択必修

生命機能化学専修



地球上に生息する多様な生物に関する生理機能、および生物が産生する有用物質の構造と機能に関する化学を中心に、食品分野、環境・エネルギー分野、医療分野および生物工学分野などに寄与するバイオサイエンスとバイオテクノロジーについて総合的に学ぶことができます。

- | | | | |
|----------|----------|----------------|--------------|
| ● 有機化学Ⅰ | ● 物理化学 | ● 生命機能化学実験Ⅰ | ● 生命化学英語 |
| ● 細胞生物学 | ● 生物物理化学 | ● バイオインフォマティクス | ● 生物機能化学 |
| ● 生命化学概論 | ● 生化学Ⅱ | ● 微生物遺伝学 | ● 生命機能化学演習Ⅰ |
| ● 分子生物学 | ● 分析化学 | ● 栄養化学 | ● 生命機能化学演習Ⅱ |
| ● 有機化学Ⅱ | ● 食品化学 | ● 発酵生理学 | |
| ● 生化学Ⅰ | ● 創薬化学 | ● 生命機能化学実験Ⅱ | その他（選択・自由科目） |
| ● 微生物学 | ● 生物化学工学 | ● 生命機能化学概論 | |

主な研究内容

- タンパク質の構造と機能に関する研究
- 最先端技術を駆使した次世代ゲノム研究
- 新薬の候補化合物を設計・合成する研究
- 食品や医療分野で利用可能な有用物質の探索
- 微生物の有用物質生産機構や代謝経路に関する研究
- 植物のミネラル獲得機構に関する研究
- 生物情報解析に基づく食品加工に関する研究

海洋生命化学専修

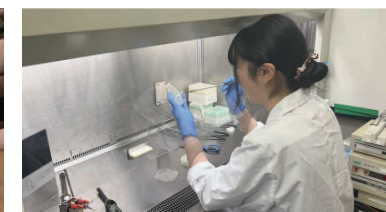


多様な海洋生物の生命機能の基礎的性質を化学的に明らかにし、医薬品・食品・香粧品などの原料となる海洋生物資源の有効利用に寄与するバイオサイエンスとバイオテクノロジーについて総合的に学ぶことができます。

- | | | | |
|----------|-------------|----------------|-----------------|
| ● 有機化学Ⅰ | ● 生化学Ⅱ | ● 海洋生命化学実験Ⅱ | ● 海洋生命化学実験Ⅲ |
| ● 細胞生物学 | ● 分析化学 | ● バイオインフォマティクス | ● マリンフードプロセス実習、 |
| ● 生命化学概論 | ● 水圏生物化学 | ● 海洋資源微生物学 | ● 海洋生命化学実習 |
| ● 分子生物学 | ● 遺伝子工学 | ● 水産食品化学 | ● 海洋生命化学概論 |
| ● 有機化学Ⅱ | ● 水産食品衛生学 | ● 生物物性学 | ● 生命化学英語 |
| ● 生化学Ⅰ | ● 微生物利用学 | ● 海洋天然化学 | ● 海洋生命化学演習Ⅰ |
| ● 微生物学 | ● 海洋生命化学実験Ⅰ | ● 脂質化学 | ● 海洋生命化学演習Ⅱ |
- その他（選択・自由科目）

主な研究内容

- 水生生物のゲノム情報を活用した産業的有用物の作出に関する研究
- 海洋生物が持つ天然化合物の探索とその機能に関する研究
- 海洋環境からの有用微生物の探索とその高度利用に関する研究
- 海洋生物の遺伝子やタンパク質などの生体高分子の情報、構造および機能に関する研究
- 洗浄・殺菌による食品微生物の制御に関する研究
- 水圏生物・微生物を活用した水産食品の品質形成と機能性に関する研究



充実したフィールド学習

関連する教育研究施設

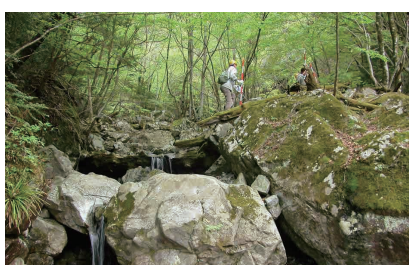
生物資源学部には、農場、演習林、水産実験所からなる附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター(FSC)や勢水丸といった特色ある附属教育研究施設があります。さらに、関連施設として全学の鯨類研究センターがあります。これらは、農林水産分野、環境など幅広い教育・研究の場として活用されています。

附属 紀伊・黒潮生命地域 FSC ① 農場



持続可能な農業生産を目指した実習教育・研究を実施しています。また、作物、施設園芸、果樹、農産加工、畜産に関する多種多様な実習を通じて農業全般を深く理解することができます。

附属 紀伊・黒潮生命地域 FSC ② 演習林



紀伊半島の代表的な自然植生を示した貴重な森林フィールドです。森林の機能や森林資源の有効利用に関する多面的な研究、森林資源の育成・利用・保全に関する実習を行っています。

生物資源学部の学生は、これらの附属教育研究施設を訪問し、体験することができます。

専門教育課程では、各自の専門性に適した施設で、さらに充実したフィールド実習や研究を行います。



鯨類研究センター

鯨類の繁殖、生態、保全に関する研究を水族館や野外にて行うとともに、成果の啓発や、関連研究者間の交流、学生向けプログラム開発を行っています。



附属 紀伊・黒潮生命地域 FSC ③

水産実験所



豊かな生態系を有する伊勢湾口部に位置しており、多様な海洋生物を対象とした実習や、資源生態・情報科学・バイオマス利用・海洋教育などの研究を進めています。

附属練習船 勢水丸



中部地区で国立大学法人が所有する唯一の水産・海洋系練習船です。学生たちにとっては、洋上での観測や採集作業を実践することで、講義で学んだ知識を理解する場となっています。加えて、高層気象観測なども行い、様々な教育航海や調査・研究航海などを行っています。

文部科学省
「教育関係
共同利用拠点」
認定



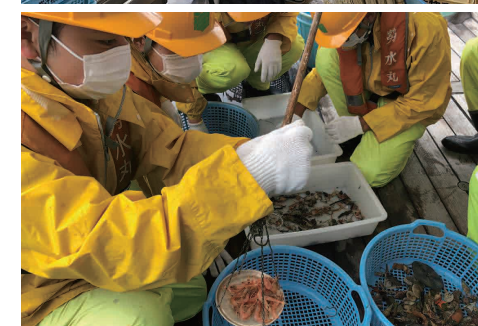
黒潮流域圏における 生物資源と環境・ 食文化教育のための 共同利用拠点

生物資源学研究科附属練習船勢水丸は、中部地区の大学（国立大学法人）が所有している唯一の水産・海洋系練習船です。平成22年6月に文部科学省により「教育関係共同利用拠点」として認定され、練習船を保有しない大学等の学生にも航海実習の機会を広く提供し、様々な活動を行っています。

勢水丸拠点化の目的は「黒潮流域圏における生物資源と環境・食文化教育」の推進です。特に伊勢湾・熊野灘を中心とした海域での洋上実習と各地域の魚市場や海産物加工場の見学等を組み込んだ特徴的な実習を体験し、黒潮流域圏に位置する三重の海洋環境ならびに気候風土と地方食文化を学ぶ機会を得ることができます。

さらに、講演会やシンポジウムを開催しており、拠点の取り組みや共同利用実習航海の成果を学内だけでなく一般に向けて紹介するとともに、学習の機会を提供しています。

勢水丸の概要	国 際 ト ン 数	491 トン
長 さ (全 長) / 50.90m	資格および航行区域	JG、国際航海・A3 水域
幅 (型) / 8.60m	常 用 航 海 速 力	約 10 ノット
深 さ (型) / 3.75m	定 員 (合 計)	44 人
総 ト ン 数 / 318 トン	推 進 電 動 機	1,000kW×1 台



沿革

- 大正 10 (1921) 三重高等農林学校設置
昭和 24 (1949) 三重大学農学部
(農学科、農業土木学科、林学科、農産製造学科) 設置
附属施設として農学部附属農場および演習林を設置
(前身学校は、三重農林専門学校)
昭和 47 (1972) 三重県立大学から水産学部を移管し、水産学部を設置
昭和 62 (1987) 生物資源学部 (生物資源学科) 設置
(農学部、水産学部を統合改組)
生物資源学部附属農場、同附属演習林、同附属水産実験所、
同附属練習船勢水丸設置
平成 3 (1991) 大学院生物資源学研究科博士課程設置
平成 12 (2000) 生物資源学部資源循環学科、共生環境学科
生物圏生命科学科設置 (生物資源学科を改組)
平成 14 (2002) 生物資源学部附属紀伊・
黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター設置
(生物資源学部附属農場、同附属演習林、
同附属水産実験所を改組)
平成 18 (2006) 大学院大学化にともない、大学院生物資源学研究科に改組
平成 29 (2017) 生物資源学部生物圏生命化学科・海洋生物資源学科設置
(生物圏生命科学科を廃止)
令和 3 (2021) 創立 100 周年

社会・世界とのつながり

生物資源学部インターンシップ

＞ 学生が商品を開発

本取り組みは、三重大学と株式会社おやつカンパニーの連携のもと実施された、商品開発の最前線を体験する実践的なインターンシップその成果として、学生ならではの視点で「三重」の魅力



令和 8 年度第 2 回三重大学記者発表にて、
生物資源学部の学生が解説
(令和 8 年 5 月 2 1 日)



商品完成報告のため
三重県知事を表敬訪問
(令和 8 年 4 月 7 日)

国際交流



協定校マレーシアトレンガヌ大学で
ダイビングのライセンス取得に挑戦する
生物資源総合科学コースの学生



英語を共通語として様々な国からやってきた学生と共に
受講する大学院の専門演習

現在、三重大学は 110 を超える数の世界中の大学や学部・研究科と交流協定を結んでおり、留学生の交換や研究・教育交流を盛んに行っています。毎年多くの学生と研究者が世界から三重大学へ、もしくは、三重大学から世界へ留学し、農林水産業や環境に関する新しい技術や理論を学んだり、研究にとりこんでいます。

また、英語で学べる科目や海外で実施される科目が提供されており、三重大学で学びながらグローバルな視点を持って地域社会で活躍できる専門知識や実践力を身につけることができます。

大学院ではほとんどの科目が英語での開講に対応しており、インドネシアにあるスリビジャヤ大学とパジャジャラン大学の両大学院との間でそれぞれ、総合的食料生産・管理計画学と持続的地域発展・保全学のダブルディグリー修士プログラムを実施しています。このプログラムでは最終試験に合格すると三重大学とインドネシアの大学からの 2 つの修士の学位が同時に授与されます。

先輩からのメッセージ

出身研究室【コース】

国際資源植物学研究室
農林環境科学コース

古戸 怜奈さん

愛知県経済農業
協同組合連合会
生産資材部肥料農業課



現在の仕事の内容

肥料の販売促進のための企画・開発を担っています。愛知県の土地柄に合い、かつ生産者が求める肥料を開発するよう努めています。肥料が効果を発揮できるか、実際に生産者の農地で使用させていただき、効能を検証する業務もあります。

今の仕事に役立っていること

稲作の一連の流れを経験したことで栽培過程や病害虫についての知識が付き、農家の方々とお話しする時に活きています。また、ゼミでは専門知識を身につけるだけでなく、先生による文章力の指導もあり、まだまだ未熟ですが仕事にも役立っていると感じます。計画を練って研究に取り組んだことも仕事において優先順位を立てるときに活かされていると感じます。

大学での一番の思い出

稲の栽培をテーマとした卒論・修論の研究です。大学内に田んぼを作るところから始め、夏の暑い日の作業や植物体の分析など、研究室の人や友人に協力してもらいながら取り組みました。わからないことや慣れないことも多く、とにかく一生懸命でした。大変でしたが仲間との楽しい思い出もあり、何より自分なりにやり切れて良かったなと思います。

大学では高校時代とは異なり、興味のあることを主体的に学べる楽しさがあると思います。将来になりたいものが定まっていなくても、少しでも興味のあることがあれば飛び込んでみてはいかがでしょうか。受験勉強は大変かと思いますが、充実した大学生活を想像して頑張ってください。

出身研究室【コース】

水利施設工学研究室 (旧 環境施設工学研究室)
農林環境科学コース 山田 彩優加さん

農林水産省 東海農政局
矢作川総合第二期
農地防災事業所 調査設計課



現在の仕事の内容

農林水産省 東海農政局で働いています。農業水利施設の設計、必要な予算を財務省に要求するほかに、YouTube への動画掲載や広報誌、インターンシップ対応、小中学生への出前授業など、広報分野の仕事もしています。YouTubeは農水省の公式チャンネルBUZZMAFFで配信しており、気になる方は「バイクだ山田」で検索してみてください。その他に、災害時の緊急対応も行っています。

今の仕事に役立っていること

研究では、地震時における農業用ダムの安定計算をしました。今は水路や頭首工の改修工事の設計にかかわっており、土木の知識が役に立っています。土木自体の内容もですが、それより難しい文献を読むことへの慣れ、人に伝えるプレゼンの仕方などを試行錯誤したことが、社会人になって繋がっていると感じます。

大学での一番の思い出

学科のみんなで、キャンパス全体を使って逃走中ごっこをしたことです。ハンター役や、LINEで指令メールを設定したりしました。他にも運動会やBBQをしたり、男女仲の良い学年だったと思います。他には研究の一環として、北海道の厚真ダムの視察を教授と 2 人でしました。

私は物理と生物が好きで、オープンキャンパスの時に「物理と生物やるならここだよ」と教授や生徒に刷り込まれここに入りました (結果、良かったです)。大した目標や将来の夢なんてなくてもいいし、将来のことなんて色々やってみてから考えればいいと思います。大学生は人生の夏休みなので、悔いの無いようバイトやサークルなど思いっきり遊んで、遊ぶために学んでください。

出身研究室【コース】

魚類増殖学研究室
海洋生物資源学コース
平松 春香さん

太地町立
くじらの博物館



現在の仕事の内容

主にカマイルカ、スジイルカ、シフハイルカなど小型鯨類の飼育やショー運営を行っています。生き物相手だと上手くいかないことも多いですが、日々の成長を一番近くで感じられ、非常にやりがいがあります。また、鯨類の行動研究を専門に行動観察やデータ解析なども行っています。今でも大学時代にお世話になった先生方に助言して頂くことも多いです。

今の仕事に役立っていること

「人に伝える」ことの大切さを専門的に学ぶことができたことです。学部の授業では英語を用いて学生同士で発表し合ったり、研究室では毎週ゼミを行い先生方や先輩たちに研究を発表しました。今では職場内の上司や先輩、お客様、学会発表など、公式な場でも正しく人に伝え、自分から積極的に発信することができるようになりました。

大学での一番の思い出

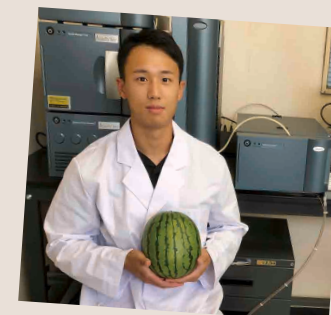
サークル活動です。三重大学は他の大学とは違い、1つのキャンパスに様々な学部の人達が集まっているので、自主的に行動すれば多くの人と関わるチャンスがあります。勉強や研究に行き詰まったときに私にとって心の支えとなり、サークルで養われた技術や知識はもちろん、出会った人との繋がりが思い出は一生の宝物となりました。

私が高校生の頃はただ哺乳類が好き、海が好きというだけで、明確に将来を決めていた訳ではありません。大学に入り、様々な勉強や研究に取り組むにつれて、やりたいことが出来てきます。夢の選択肢を広げるといった意味でも今の努力は無駄にはならないはずです。ぜひ頑張ってください。

出身研究室【コース】

水圏材料分子化学研究室
生命化学コース
藤田 信吾さん

株式会社 萩原農場
生産研究所
技術開発部バイテクチーム



現在の仕事の内容

スイカとメロンの品種改良をして種を販売する会社に勤めています。主な業務はスイカやメロンの品種や栽培方法、栽培環境、収穫時期の違いが成分含量に及ぼす影響を研究しています。加えて、スイカの加工食品を開発するために適切な品種の育成や栽培方法、加工方法などについても大学と共同で研究開発をしています。

今の仕事に役立っていること

今は企業で研究をしていますが、すべての基礎は大学の卒業研究を通じて培われました。注意深く観察し、よく考え、隅々まで調べるといった研究対象に真摯に向き合う姿勢の大切さを身をもって学ぶことができ、今の仕事に役立っています。

大学での一番の思い出

研究室配属から卒論発表まで本当に濃い時間で、熱心に指導して下さった先生、苦楽をともにした仲間との研究室生活が一番の思い出です。毎日が充実し、楽しんでいたことを鮮明に覚えています。夜遅くまで研究室に残って語り合ったことは良い思い出です。

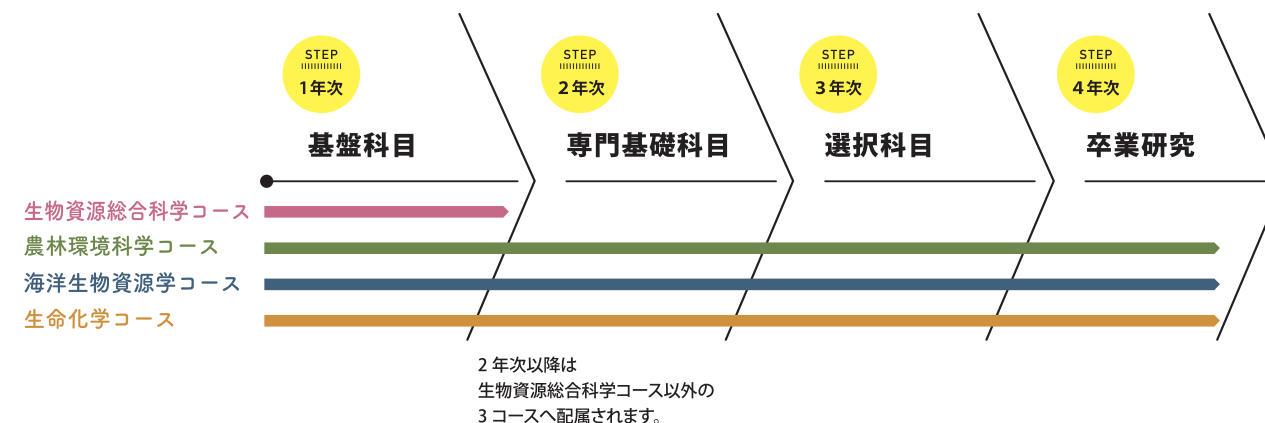
三重大学はとても素晴らしい場所です。受験戦争を勝ち抜けば、多くの出会い、楽しみ、学びを得られることでしょう。そして、将来やりたいこと、就きたい仕事を見つけることができます。くじけず受験勉強を乗り越えてください。きっと明るい未来が待っています！

入学から卒業まで



生物資源学部を卒業する学生の30～40%は、
大学院（生物資源学研究科）に進学して、さらに研究を続けています。
より専門的な知識を習得しながら問題点を探し、
それを自分で解決するのは大学院でのひとつの醍醐味といえるでしょう。
研究者を目指す人は、「博士号」を有していることが最近ではほぼ条件になっています。
自分が目指すものをよく考えて、
そこへ到達するための手段や方法を一緒に考えていきましょう。

三重大学 生物資源学部 4年間（学士）



進学

三重大学院 生物資源学研究科

博士前期課程 2年間（修士）

資源循環学専攻

- ・農業生物学講座
- ・森林資源環境学講座
- ・国際・地域資源学講座

共生環境学専攻

- ・地球環境学講座
- ・環境情報システム工学講座
- ・農業土木学講座

生物圏生命科学専攻

- ・生命機能化学講座
- ・海洋生命分子化学講座
- ・海洋生物学講座

国際交流

P.12 参照

連携大学院

- ・国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所
- ・国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産技術研究所
- ・太陽化学株式会社

博士後期課程 3年間（博士）

資源循環学専攻

- ・資源循環システム科学講座
- ・国際資源循環科学講座

共生環境学専攻

- ・気象・地球システム学講座
- ・環境・生産科学講座

生物圏生命科学専攻

- ・応用生命化学講座
- ・海洋生物科学講座



就職

三重大学では、キャリアセンター（キャリア支援チーム）が
様々な就職支援活動を行っています。

就職ガイダンス等

就職活動について、公務員業務説明会、自己分析・エントリーシート・面接対策、インターンシップ研修会など、就職志望者対象の各種ガイダンスを開催しています。また毎年、三重大学の卒業・修了予定者を対象とした学内企業研究会・説明会を開催しています。

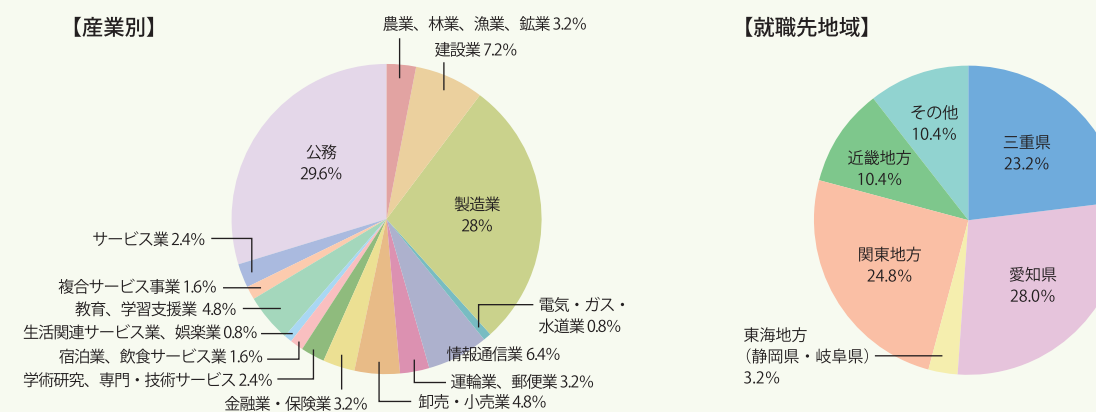
令和7年度は、7月9日・7月11日に対面で、166社の企業が参加して行われました。更に三重大学生協とタイアップした公務員講座も開講しています。

就職情報・相談コーナー

学生が自由に使えるパソコン及び資料を設置し、企業情報、公務員募集要項、インターンシップなどの情報を提供しています。また、「進路に迷っている」、「自分はどんな仕事に向いているかわからない」、「エントリーシートの添削をして欲しい」といった学生の進路・就業相談に対して、キャリアカウンセラーが個別に応じます。

令和7年度卒業生の産業別内訳・就職先一例

※一部抜粋



もっと詳しい

就職情報 <https://www.mie-u.ac.jp/life/career/>



入学試験

三重大学受験生応援サイト <https://www.jukensei.mie-u.ac.jp/>



以下の記載内容は令和8年案内作成月時点での情報です。より新しい情報は三重大学学務部入試チームまでお問合せください。

入学試験
の日程

前期日程

令和9年
2/25木

後期日程

令和9年
3/12金

学校推薦型選抜Ⅰ・Ⅱ

令和8年
11/21土

総合型選抜

令和8年
9/27日

帰国生徒・社会人

令和9年
1/22金

令和9年度入学者選抜における大学入学共通テストの教科・科目等の利用方法について

	コース名	入学志願者に解答させる教科・科目名	個別学力検査等の概要
前期	生物資源総合科学	国 「地総・地探」・「歴総・日探」・「歴総・世探」 「地総／歴総／公」・「公・倫」・「公・政経」 「数Ⅰ・数A」と「数Ⅱ・数B・数C」 「物」・「化」・「生」・「地」から2 「英」・「独」・「仏」・「中」・「韓」から1 情 〔6教科8科目〕	数 (「数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B・数C」 又は 「数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C」) 理 (「物基・物」・「化基・化」・「生基・生」) から1
	農林環境科学		
	海洋生物資源学		
	生命化学		
後期	農林環境科学	国 「地総・地探」・「歴総・日探」・「歴総・世探」 「地総／歴総／公」・「公・倫」・「公・政経」 「数Ⅰ・数A」と「数Ⅱ・数B・数C」 「物」・「化」・「生」・「地」から2 英 情 〔6教科8科目〕	ペーパーインタビュー (主体性、多様性、協働性を多面的・ 総合的に評価する記述試験を 行います。)
	海洋生物資源学		
	生命化学		
	推薦Ⅰ(専門高校対象)		
推薦Ⅰ (専門高校対象)	農林環境科学	大学入学共通テストは課しません。	小論文と面接(出願書類を含む)の 結果を総合して選抜します。
	海洋生物資源学		
	生命化学		
	推薦Ⅱ(普通科理数科等対象)		
推薦Ⅱ (普通科理数科等対象)	農林環境科学	国 「地総・地探」・「歴総・日探」・「歴総・世探」 「地総／歴総／公」・「公・倫」・「公・政経」 「数Ⅰ・数A」と「数Ⅱ・数B・数C」 「物」・「化」・「生」・「地」から2 英 情 〔6教科8科目〕	大学入学共通テストと 面接(出願書類を含む)の 結果を総合して選抜します。
	海洋生物資源学		
	生命化学		
	総合型選抜		
総合型選抜	生物資源総合科学	大学入学共通テストは課しません。	グループディスカッションを含む 面接及び出願書類によって 選抜します。
	農林環境科学		
	海洋生物資源学		
	生命化学		

※大学入学共通テスト『英語』は「リーディング」・「リスニング」の受験が必須となります。

募集定員

コース名	一般選抜		学校推薦型選抜		総合型選抜		帰国生徒	社会人	合 計
	前期日程	後期日程	推薦Ⅰ	推薦Ⅱ	総合Ⅰ	総合Ⅱ			
生物資源総合科学コース	15	－	－	－	15	－	－	－	30
農 林 環 境 科 学 コ ー ス	53	28	7	18	－	－	2	2	110
海洋生物資源学コース	25	10	2	6	－	－	1	1	45
生 命 化 学 コ ー ス	41	10	2	20	－	－	1	1	75
計	134	48	11	44	15	－	4	4	260

※推薦Ⅰ：大学入学共通テストを課さない（専門高校対象）。 ※推薦Ⅱ：大学入学共通テストを課す（普通科・理数科等 対象）。
※生物資源学部生物資源学科（生物資源総合科学コース）の総合型選抜における募集人員は、紀伊黒潮枠15名とします。

令和9年度 大学入学共通テスト・個別学力検査配点

	コース名	試験の区分 (各コース共通)	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語	情報	ペーパー インタビュー	面接	合計
一般選抜(前期)	生物資源総合科学 農林環境科学 海洋生物資源学 生命化学	共通テスト	100	100	300	300	400	50	－	－	1,250
		個別学力検査	－	－	250	250	－	－	－	－	500
		合計	100	100	550	550	400	50	－	－	1,750
一般選抜(後期)	農林環境科学 海洋生物資源学 生命化学	共通テスト	100	50	200	200	200	50	－	－	800
		個別学力検査	－	－	－	－	－	－	100	－	100
		合計	100	50	200	200	200	50	100	－	900
推薦Ⅱ	農林環境科学 海洋生物資源学 生命化学	共通テスト	50	50	200	200	200	50	－	－	750
		面接	－	－	－	－	－	－	－	300	300
		合計	50	50	200	200	200	50	－	300	1,050

「ペーパーインタビュー」について

一般選抜（後期）では、大学入学後の学修への関心・意欲等を総合的に判断するための試験として、ペーパーインタビューを導入しています。
詳細については、令和9年度入学者選抜要項（7月上旬発行予定）をご確認ください。

※入学者選抜要項は、三重大学受験生応援サイトからも確認できます。



資格・免許 奨学金

生物資源学部では、所定の単位数を修得すると取得可能になる免許・資格や、受検資格が得られるものがあります。

取得可能な免許

教員免許状	生物資源学科：高等学校教諭一種（理科・農業・水産）
-------	---------------------------

教員免許取得に必要な科目には、学部の卒業に必要な科目の中から指定された、理科、農業、水産の免許に必要な科目だけでなく、教育実習を含む、卒業単位にはカウントされない教職専門の科目を修得する必要があります。通常のカリキュラムと並行してこうした科目の修得を目指すには大変な努力が必要ですが、農業、水産の免許は教育学部では取得できませんし、高校の理科教諭を目指すには、当学部の教職課程は有用な選択肢となっています。

取得可能な資格 ※ホームページ等で必ず最新の情報をご確認ください

学芸員 全学科	博物館、美術館、動物園、植物園、水族館などの博物館相当施設において、資料の収集や整理、保存・保管・展示・活用、利用者への説明や助言、専門分野の調査、研究、教育普及活動などに従事します。所定の科目を履修することが必要です。
食品衛生管理者 食品衛生監視員 生命化学コース	食品衛生管理者は、食品製造加工施設で、衛生上の考慮を必要とする食品や添加物の衛生管理、作業従事者の監修を行う仕事です。食品衛生監視員は、食品衛生法に基づいて、営業施設に対する立入検査や監視、指導を行う仕事です。主に国の検疫所や地方自治体の保健所に所属となります。所定の科目を履修することが必要です。
樹木医補 農林環境科学コース	樹木の診断や治療を行う木のお医者さんです。樹木の保護育成や、樹木保護に関する知識の普及・指導も行います。（民間資格）所定の科目を履修することが必要です。
修習技術者 (JABEE農業土木学プログラム) 農林環境科学コース	JABEE とは一般社団法人日本技術者教育認定機構のことです。高等教育機関の工農理系学科で行われている技術者育成に関わる教育の認定制度で、日本語で教育しながら国際的に通用する内容と水準を有していることが審査・認定されています。当 JABEE 農業土木学プログラムの存在は政府官報に記載されています。修習技術者は技術士資格の第一次試験が免除され、さらに実務経験を経て第二次試験に合格すれば「技術士」の称号が得られます。
測量士補 農林環境科学コース	建築、建設、土木の現場や地図作成などの現場では欠かせない専門家です。測量士の立案に沿って測量する技術士です。所定の科目を履修することが必要です。

日本学生支援機構奨学金

奨学金の種類		第一種奨学金	第二種奨学金	授業料後払い制度（修士・博士前期のみ）
特 徴		① 貸与型奨学金 ※卒業後に分割して返還します		
		② 無利子 ※貸与総額のみを返還		
		③ 貸与月額下記の中から選択		
		④ 学力・家計基準は二種より厳しい		
奨学金の月額	学部生	自宅通学 20,000 円、30,000 円、45,000 円から選択 自宅外通学 20,000 円、30,000 円、40,000 円、51,000 円から選択	2 万円～12 万円（1 万円単位）から選択	
	大学院生	修士・博士前期 50,000 円、88,000 円から選択	5 万円、8 万円、10 万円、13 万円、15 万円から選択	授業料支援金に加え生活費奨学金の貸与を希望する者は月額 2 万円・4 万円から選択
		博士後期・博士医 80,000 円、122,000 円から選択		
貸与始期	学部生	4 月から	4 月～9 月の間で希望する月から	
	大学院生	4 月から		4 月から
貸与方法		申込時に指定した本人名義の金融機関口座へ毎月 11 日頃に振り込まれます		
		授業料支援金は直接機構から大学へ振込。 生活費奨学金は本人口座へ毎月 11 日頃振込。		

※第一種奨学金は、高等教育の修学支援新制度による給付奨学金と一緒に受ける場合、貸与月額が制限されます。

入学時特別増額貸与	上記何れかの奨学金の貸与を受ける新入生（編入学者を含む）は、一定の条件を満たす場合に限り、希望により、奨学金の初回振込時に入学時特別増額（10 万、20 万、30 万、40 万、50 万円から選択）（有利子）の貸与を受けることができます。
高等教育の修学支援新制度（学部生）	勉学に励む意欲があり、またそれにふさわしい能力を持った学生が、経済的理由により修学をあきらめることがないよう、国が経済的な支援を行う制度です。採用者は、入学料及び授業料の全部または一部が免除されるとともに、返還が不要な給付型奨学金が支給されます。なお、支援対象者等は、文部科学省ホームページ（ https://www.mext.go.jp/kyufu/ ）に掲載されていますので、参照してください。

■ 渡邊文二奨学金

故渡邊文二氏による学生の就学を支援する制度です。対象は、生物資源学部 3 年次の学生で年額 48 万円（学部学生）が給付され、給付された奨学金の返還は必要ありません。採用されると 2 年間継続して給付を受けることができます。【問い合わせ先】TEL 059-231-9673 Email : bio-somu@ab.mie-u.ac.jp

このような人 求めます！

- 高等学校の教育課程において履修する内容を十分に理解し、高校卒業レベルの知識を有する人。
- 農林水産学を対象とした専門高校において専門科目を深く学び、優れた成績を修めた人。
- 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識ならびに理解能力を有している人。
- 生命科学や農林水産学に関わる様々な現象に関心を持ち、生物資源の適正な開発・利用と保全に関心のある人。
- 自然と人が共生する持続的社会の創出を目指し、社会貢献に対する明確な目的意識を有する人。

このような人 育てます！

生物資源学部は、食と農林水産・フードシステムに関わる俯瞰的な視点を持ちつつ、地域の豊かな自然から生み出される生物資源の適正な開発・利用・保全を追求し、データの論理的な分析に基づく科学技術に関する教育・研究成果を生み出すことで地域と世界に貢献することを目指しています。

そのために、幅広い講義や実験・実習を実施し、独創性と専門性を兼ね備え、**自らの力で問題解決ができる知識と能力を身につけた人材の育成**を目標にしています。

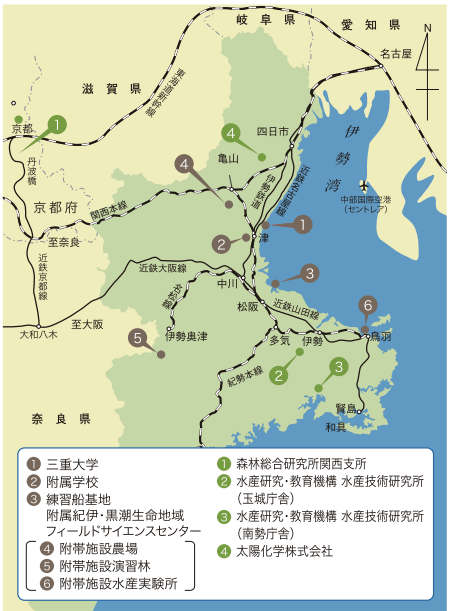


撮影：2025 年 4 月

【アクセス】

- 近鉄江戸橋駅から徒歩約15分
- 津駅東口バスのりば「4番」から「大学前」下車
津駅からタクシーで約10分
- 近鉄急行
名古屋～江戸橋 約60分
- 近鉄特急
名古屋～津 約50分
難波～津 約90分
京都～津 約110分
(津で急行または普通に乗り換え)
津～江戸橋 約2分
- 中部国際空港(セントレア)～津なぎさまち
高速船45分

【三重県内および近郊】



【津市内】



山の頂から
海の底まで。



国立大学法人 三重大学 **生物資源学部**

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577 TEL.059-231-9626 FAX.059-231-9634
<https://www.bio.mie-u.ac.jp>

